

オーディオ実験室収載

バッハ盤を聴く(19)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(19)—

1. 始めに

前報(18)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回は LINN LP-12 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

今回は、次のレーベルを聴いてみます。

ARCHIV MA 5119 (日本ポリドール)

J.S,バッハ ヴィオラダガンバとオブリガートチェンバロのためのソナタ 1 番

BWV1027

ヴィオラダガンバとオブリガートチェンバロのためのソナタ 2 番

BWV1028

ヴィオラダガンバとオブリガートチェンバロのためのソナタ 3 番

BWV1029

アウグスト・ヴィンチンガー (ヴィオラダガンバ)

エドゥアルト・ミュラー (チェンバロ)

ARCHIV 198 320 (Hamburg)

J.S,バッハ 音楽の捧げもの BWV1079

カール・リヒター (指揮・チェンバロ) 他

ARCHIV 198 172/73 (Hamburg)

J.S,バッハ 組曲 1 番ハ長調 BWV1066

組曲 2 番ロ短調 BWV1077

組曲 3 番ニ長調 BWV1078

組曲 4 番ニ長調 BWV1079

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

ARCHIV 盤は、ZANDEN のリストでは、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid と DECCA、R、第 4 時定数 Mid の二つがあります。

ヴィオラダガンバとオブリガートチェンバロのためのソナタは、前報(18)までの経験を元に TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いてみましたが、違和感はありません。ヴィオラダガンバのしっとりとした音色とヴィオラダガンバに対比するようなチェンバロの繊細な奏法が明晰に表現されています。

音楽の捧げものは、前報(18)までの経験を元に TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いてみましたが、違和感はありません。チェンバロ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、フルートなどの古楽器が入れ代わり立ち代わり、演奏されていきますが、それらの質感が明瞭であり、この曲のしみじみとした表情を伝えてくれています。

組曲 1 番から 4 番は、前報(18)までの経験を元に TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いてみましたが、違和感はありません。お馴染みの曲で、盤質はよくありませんが、アンサンブルもフルートのソロもオーソドックスな演奏で、この曲の特徴を活かしています。特に組曲 2 番のオーレル・ニコレのフルートのソロは、定番と言っていいと思います。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1) とレコードアンティスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上